

丹波家の医師系図について

高橋 教子

丹波家は、平安時代から幕末まで綿々と続き、多くの優秀な医家を輩出した著名な医系であり、我が国の医学史に残した功績も多大なものがある。しかし、ひとたび、丹波某について書物に当たって学ぼうとすると、ただでさえ同名や似た漢字の名が多くて紛らわしいうえ、各々の資料で異なった記載がされていることが多く、統柄関係・名前の綴り・官位・官職等の細かな差異は枚挙に暇がないほどであり困惑することが多い。例えば丹波幸基はある系図では頼直となっており、また別の系図では頼宣・頼豊となっている。盛長は成長・雅長ともあり、その息の重長も成長とも記載されている。二種以上の名が出現するのは、季と秀のように綴りの写し間違いと思われるものや、幼名や別名が採られている場合が多いようである。統柄では同一人物が長男の子とされたり四男の子とされていたり、ある系図では兄弟なのが別系図では親子であったりする。家督を継ぐための養子縁組のためや、やはり写し間違いもあると思われる。例えば小森氏の祖とされる頼豊には季長（季賢）の息という説と頼定の息という説があるが、季長と頼定との関係は同時代の人ということしか解らない。『呉秀三撰医師派譜』でもこの例のように同一物と思われる人が二箇

所以上に現れる例が幾つかある。なかには一冊の書物の中で一人がさも別人の二人であるかのように扱われていることさえあり、逆に同名の別人を同一人の如く説明されていることもある。

このようなことから丹波家を研究するうえでの一助になればと考へ、丹波家の系図について整理を試みたので報告する。

丹波氏は倭漢氏系帰化渡来人の氏族であり、『医心方』を撰進したとして知られる康頼の時に初めて朝廷より丹波宿禰を賜わった。丹波の名は地名に由来するものとされる。康頼以前の系図としては、『統群書類従』中の『群書系図部集』に後漢の靈帝を祖とし康頼を靈帝の十二代孫とする系図が見られる。これによると、靈帝から康頼の父に当たる大國までの系図は、当時倭漢氏のなかでもっとも勢力のあった坂上氏の系図と同じである。大國（『統記』によると八世紀前半の人）と康頼（九一二〜九九五）との間に二五〇年もの開きがあり信憑性に問題があるが、康頼以前の別系図は無く比較検討もし難い。ともかく丹波氏が最初に医家として登場するのは康頼であり、膨大な人数を占める丹波氏の全員について調査することは非常に困難かつあまり意義あることとも思えないため、康頼以下で医に携わったものだけを取り上げて整理してみることにした。丹波氏からは吉田家・錦小路家・施薬院家・多紀家・小森家・和気家・兼康家・金保家・親康家・丹家などが岐れたが、各資料のうち一箇所でも医業にかかわる記載のあるものを拾ったところ丹波姓だけでも二〇〇人を越えたため、今回は丹波姓に限定した。

資料としては、『群書系図部集』に記載される三種の系図（丹

波氏系図・小森本丹波氏系図・元祖同坂上氏丹波氏系図）、『呉秀三撰医師派譜』、『寛政重修諸家譜』、『皇国名医伝』、『本朝医考』等を参照した。

整理の方法としては、康頼を二代目として〇一〇一というように全員に四桁の系図番号を付し、番号順の一覧表と番号を座標点として引きやすく配列した系図を作成した。これによって検索しやすしい系図が出来、丹波氏二〇〇余名の關係がかなり整理されたし、種々の資料の特徴なども知ることができたと思う。

（昭和六十三年一月例会）

和氣・半井家の医師系図について

高橋 教子・小曾戸 洋

日本古来の名医家といえは和丹の二家がまず挙げられる。古代においては、和氣氏は丹波氏を凌駕するほどの家格であった。中世以降その勢力はやや丹波氏に劣ったが、それでも半井を称した和氣家は依然として医界に大きな勢力を有していた。

この和氣・丹波の家系からは、歴代にわたり多数の医家が輩出したため、各々の人物の続柄は複雑を極め、系図も種類あってそれらの間には大小の差異が多数見られ、検索はさほど容易ではない。演者（高橋）は先の例会で、丹波家の医師系図について整理を試み報告したが、その後、和氣家についても同様にコンピュータを利用して整理・検討を行った。

和氣姓・半井姓を名乗った男子に範囲を限定して系図を作成

し、整理番号を附してその番号で系図および一覧表から検索できるように整理した。一覧表は、整理番号順、五十首順、年代順の三種類作成した。

資料として『群書系図部集』（統群書類従）、『寛政重修諸家譜』、『皇国名医伝』、『本朝医考』、『呉秀三撰医師派譜』、『典医の歴史』（山田重正著）、『医家人名辞書』（竹岡友三著）、『古代医療官人制の研究』（新村拓著）、『大醫和氣・半井家系の研究』（石野瑛・『日本医史学雑誌』昭和十二年）等を参照した。

『寛政重修諸家譜』は家督を嗣いだ者を主とした系図で、何代かを飛び越したり省略することが多く真の血縁關係は得にくい。『呉秀三撰医師派譜』は同一人物を何度も重複して配したり、他の系図とは明らかに異った独特の見解をとっており、系図の統一整理作業の混乱のもととなるが多かった。『典医の歴史』も他の系図と異なる記載が多かったが、こちらは誤植か資料の写し間違いと思われるものがほとんどであった。コンピュータによって、五十首順、年代順の整理は非常にスムーズに行えた。年代順に整理したことによって、生没年の明らかでない人物についてもおおよその活動年代が推測でき、資料の誤りも幾つか発見された。『医家人名辞書』には丹波有忠以下一二名が、和氣姓と誤って記載されていたことが、前回作成した丹波家の資料との照合によりわかった。

対象人物は三二五人にも及び、各人について深く追求調査するには至らなかったが、和氣・半井家研究の一助となればと考え報告を行った。

（昭和六十三年四月例会）